

ダイジェスト版

目指せ、公認会計士！

～拡大する公認会計士の活躍領域～

福岡県立宇美商業高等学校

2017年1月12日

公認会計士・監査審査会

会長 廣本 敏郎

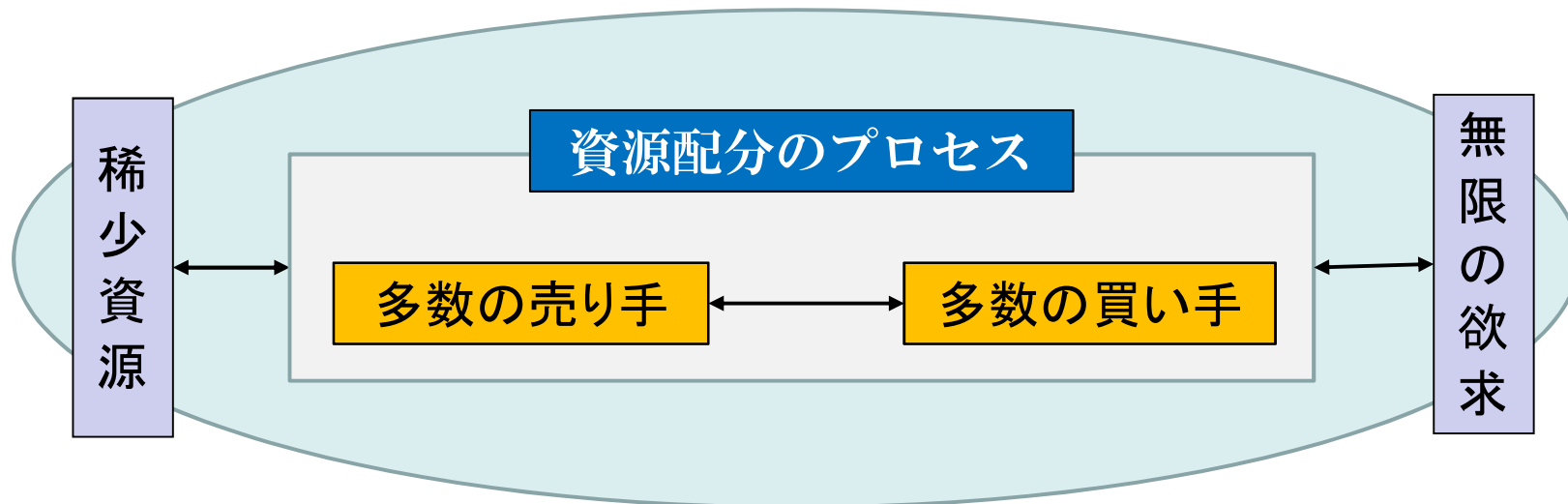
本日の構成

- はじめに
 - 市場経済を支える複式簿記・公認会計士
 - 現代経営の中枢を成す会計
- 拡大する公認会計士の活躍領域
 - 金融庁等の期待
 - 非営利法人への公認会計士監査の導入
- 経営・会計の社会的責務
 - 松下幸之助氏の経営哲学とその実際
 - 公認会計士の社会的使命

はじめに

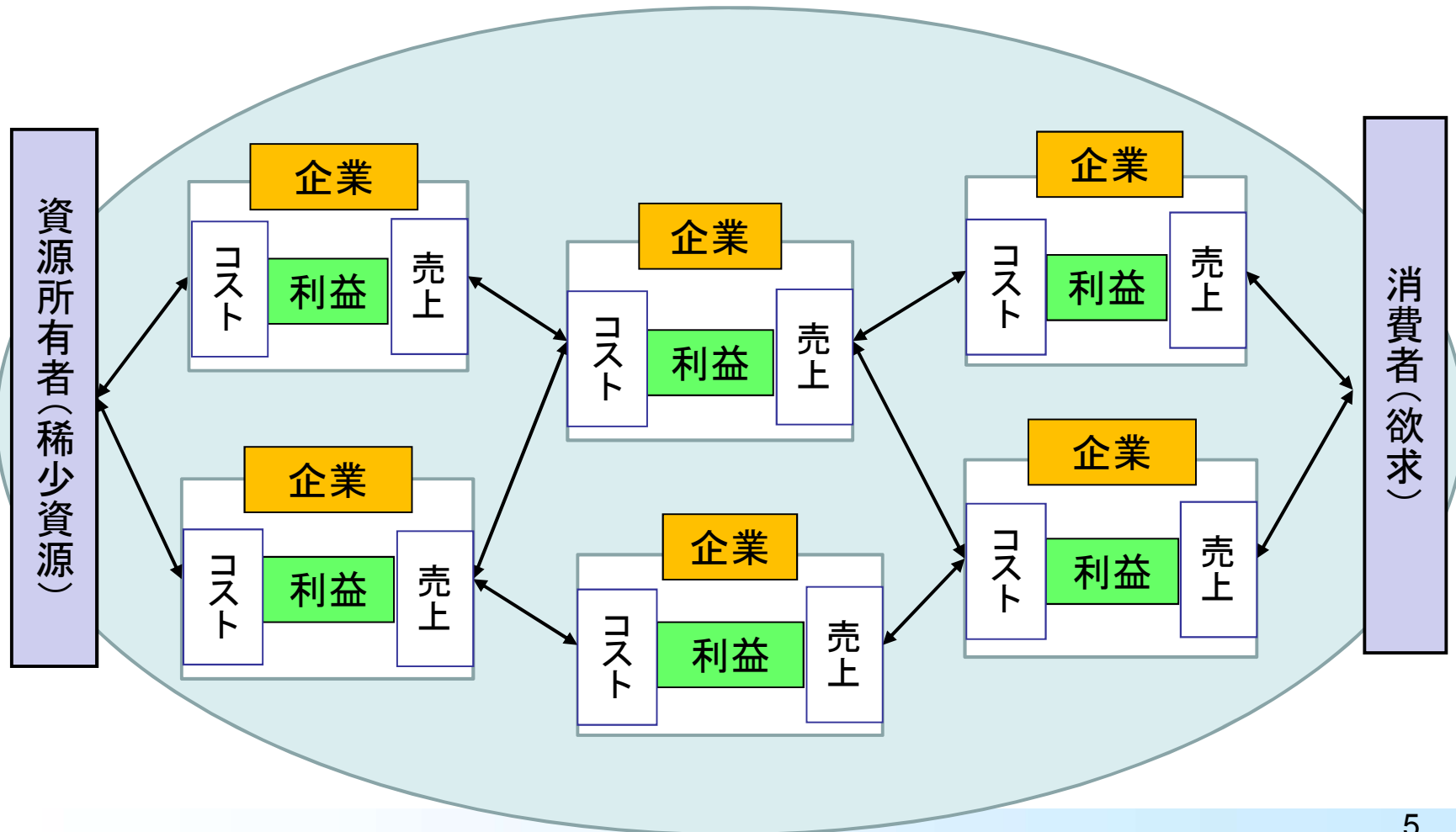
市場経済の制度

—市場参加者の自由競争—

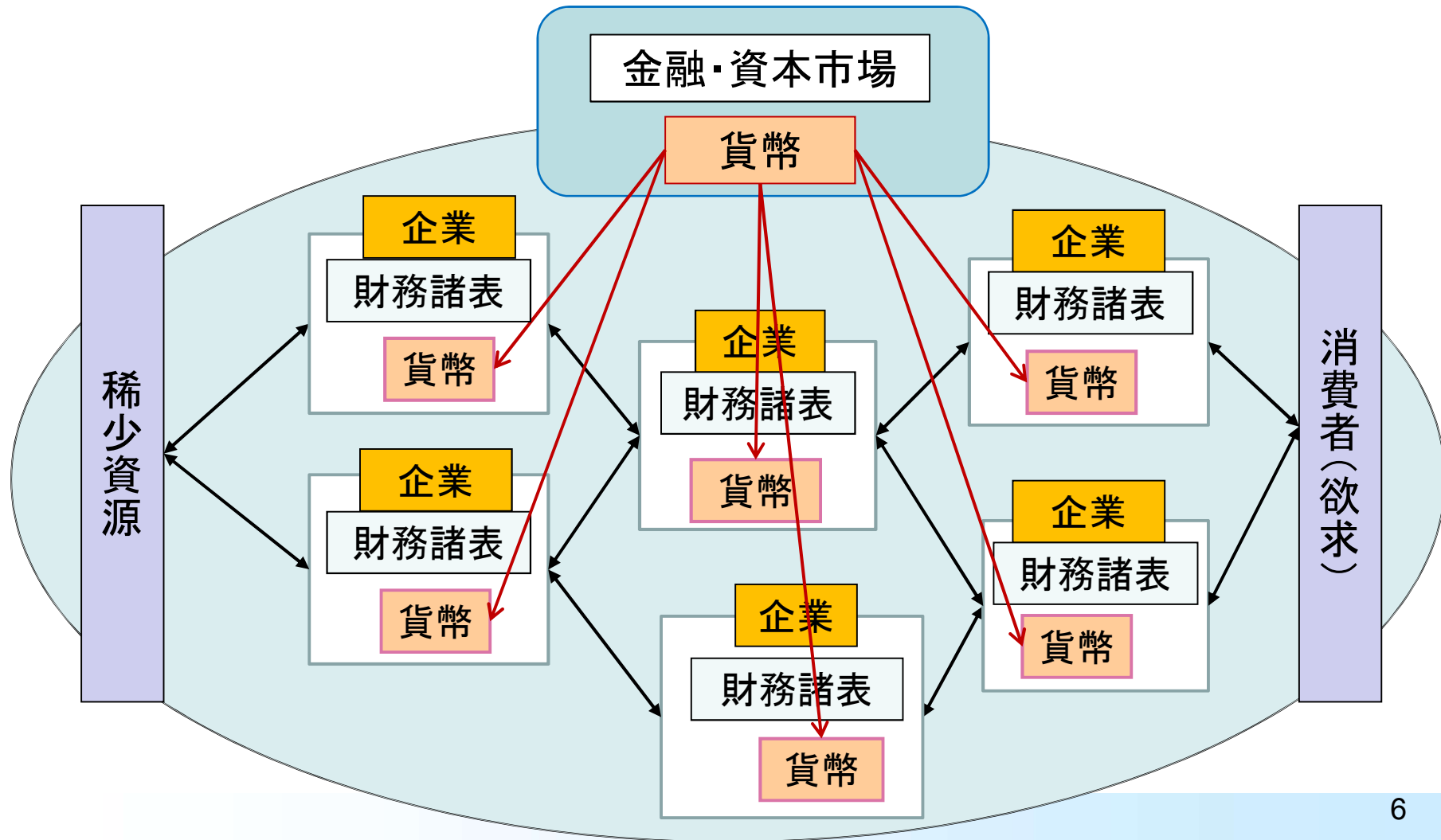


奪い合いでも恣意的な配分でもなく、
売り手と買い手の対等な交換取引による配分

市場参加者の行動原理「売上最大、コスト最小」 ～複式簿記の重要性～



資金の有効かつ効率的な配分 ～実体経済を支える金融・資本市場～



現代経営の中枢を成す会計

～稲盛和夫『実学—経営と会計』より～

- ・ 日本経済は成熟化し、成長神話は崩れ去り、複雑なグローバル経済の中に組み込まれている。このような時代においては、経営者は、自社の経営の実態を正確に把握した上で、的確な経営判断を下さなくてはならない。そのためには、会計原則、会計処理にも精通していることが前提となる。
 - － ところが日本では、それほど重要な会計というものが、経営者から軽視されている。会計と言えば、事業をしていく過程で発生した金やモノにまつわる伝票処理を行い集計をする、後追いの仕事でしかないと考えている。 (続く)

現代経営の中枢を成す会計（続）

- 経営者にとって必要なのは、結果として「いくら利益が出たか」であり、会計の処理方法は専門家が分かっているだけでよいと思われ、更に、会計の数字は自分の都合の良いように操作できる、と考えている経営者さえいる。
 - 私は京セラを創業、ゼロから経営を学んでいく過程で、会計は「現代経営の中枢」を成すものであると考えるようになった。企業を長期的に発展させるためには、企業活動の実態が正確に把握されなければならないことに気づいたのである。（稲盛和夫『実学』日本経済新聞社、1998年、2-3頁）

フェアなディスクロージャー

- 経営者は、定められた決算資料においてできるだけフェアな情報開示を行うというだけでなく、日常活動として、投資家に対するIR（インベスターズ・レレーションズ）活動も重視する必要がある。
 - 証券市場を活性化させるには、証券市場をより公正で透明なものにする必要があるが、それと同時に企業自身が公明正大で透明な経営を行い、フェアで活発な投資家とのコミュニケーションを行っていくことが不可欠である。

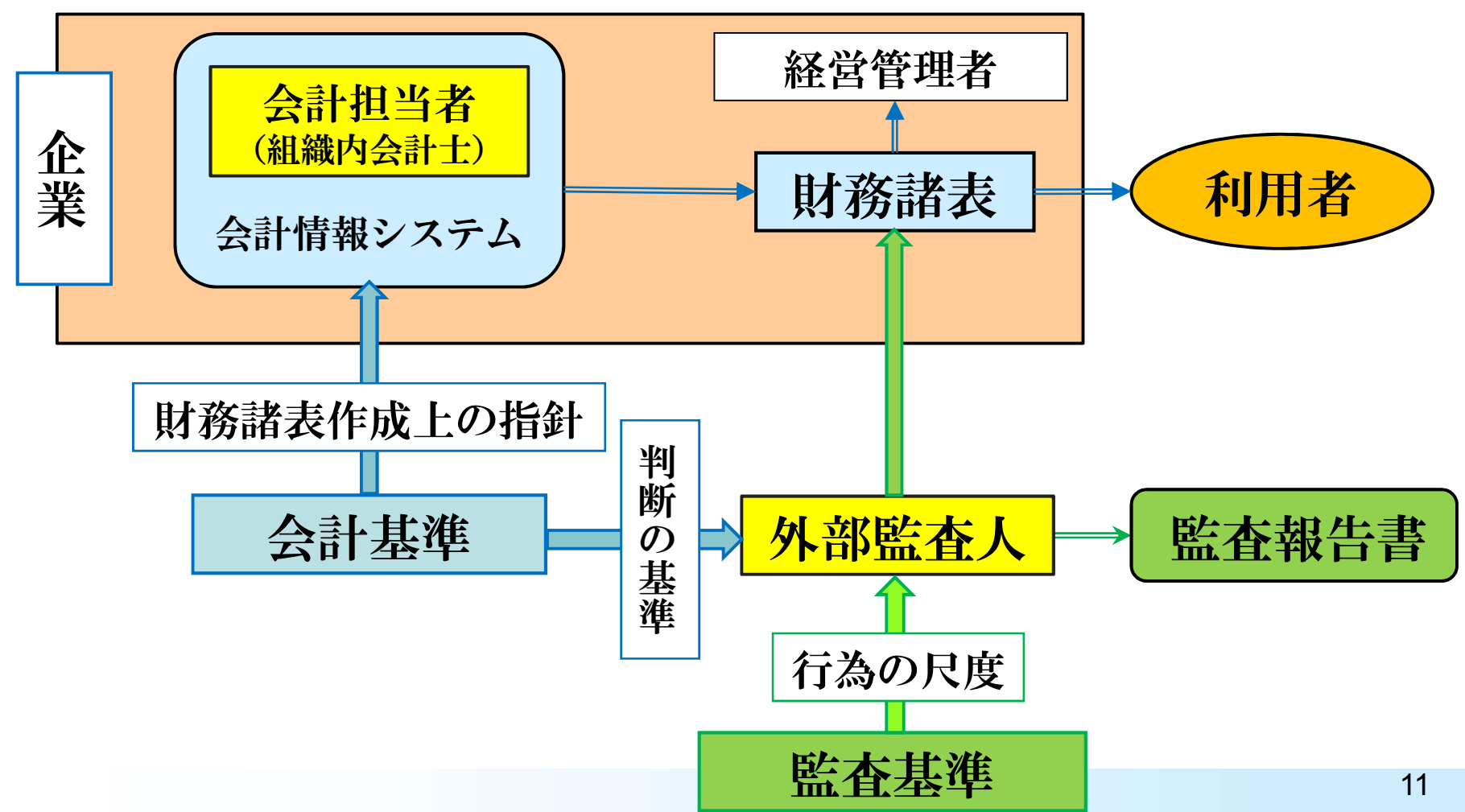
(続く)

フェアなディスクロージャー（続）

- ・ たとえば「良くない事態」が起きたとしても、勇気を持って社外に対し、ただちに明らかにすることによって、逆に会社に対する信頼は高まっていく。困難に遭遇した時は真正面から立ち向かい、打開策を確実に実行していることを、正直に投資家に対して訴えればよいのである。
 - このように自社のありのままの姿を包み隠さずオープンにするためには、利益よりも公正さを優先するという確固たる経営哲学が不可欠となる。

（稲盛『実学—経営と会計』154-155頁）

財務情報の信頼性確保のシステム ～公認会計士の重要性～



拡大する公認会計士の活躍領域

公認会計士は、経済社会のさまざまな分野
で求められています

金融行政方針 平成28年10月 金融庁

- 監査業務を担う公認会計士という職業に関心を持つ者の拡大を図るため、会計監査や公認会計士資格に関し、高校生等若年層や女性に向けた広報活動を、日本公認会計士協会等と連携して推進する。(15頁)
- 金融庁・日本公認会計士協会 作成パンフレット
公認会計士・試験合格者の活躍フィールド (2016年8月)
 - 公認会計士は、監査法人で勤務するだけではありません。監査業界に限らず、社会のさまざまな場面で会計専門家の知識・経験・判断力が必要とされています。

社会福祉法人への公認会計士監査の導入

- 平成28年3月、社会福祉サービスの供給体制の整備及び充実を図るため社会福祉法の改正が国会で可決・成立し、その結果、一定規模以上の社会福祉法人には公認会計士監査を導入することが義務付けられました。

【公認会計士監査導入のメリット】

- － ① 財務情報の信頼性の向上、ガバナンスの強化、及びその結果としての法人の社会的な信頼性の向上に寄与する。

社会福祉法人への公認会計士監査の導入（続）

- ② 適時、適切な経営判断に不可欠な信頼性の高い財務情報を適時に把握できる管理体制の整備・経営力強化に寄与する。
- ③ 職業専門家との定期的なコミュニケーションにより、経営課題を浮彫りにし、共に課題解決に取り組むことができる。
- ④ 不正の防止、発見効果が増す。
- ⑤ 業務プロセスの見える化により、効率的な経営の実現に寄与する。

経営・会計の社会的責務

松下幸之助氏の経営哲学

- 利益というものは、健全な事業活動を行っていく上で欠かすことのできない、大切なものである。
 - しかし、それ自体が究極の目的かというところ、そうではない。
- 根本は、その事業を通じて共同生活の向上を図る、というところにある。

(続く)

松下幸之助氏の経営哲学（続）

- ・ その根本の使命をよりよく遂行していく上で、利益というものが大切になってくるのであり、そこのところを取り違えてはならない。
 - そういう意味において、事業経営というものは、本質的には私の事ではなく、公事であり、企業は社会の公器なのである。

（松下幸之助 『実践経営哲学』 PHP研究所、
1978年、26頁）

松下における経理の実際

- 松下電器では、毎月各事業部の決算が中央に集まり、それを本社で克明にチェックしているが、何を“よりどころ”としてチェックしているのか。それは...創業者の示されている経営の基本方針に沿うものである。
 - － 一例を挙げると、ある事業部が大きな利益をあげてもそれが経営の基本方針に反し、世間から非難されるような手段によって得たものであれば、絶対に承認されない。

(続く)

経営基本方針に合致した利益

- 逆に、利益のあがっていない事業部があれば、我々の考え方は、たとえいかに競争が激しくても、社会に貢献していれば必ず適正な報酬、つまり利益はいただけるという考え方であるから、利益が得られなということは、どこかに欠点があるはずだと考えて、厳しく追及していくようにしている。

(高橋、214-215頁より)

公認会計士の社会的使命

- 会計に携わる人間には、会計人としてのプライドと責任感を持ってほしいと思います。
 - － 経営者が何としてでも売上を増やせ、利益を増やせと言ったとしても、経理部長等の立場の方々が、「それはできません」「それは不正行為です」と毅然とした態度で拒否していれば、防ぐことができたケースも少なくないと思うのです（現に、身を挺して歯止めの役割を果たした経理部長等もたくさんいます）。

（浜田康『会計不正』日経ビジネス人文庫、2008年、101-102頁）

公認会計士の社会的使命（続）

- 監査人は、粉飾決算の防止・発見のために誠心誠意努力をしています。私自身、監査という仕事に誇りを持ち、監査人が粉飾決算の防止・発見をせずに誰がするのだという気概で取り組んでいました。
 - － すぐに監査の限界論を口にするような公認会計士は、監査を辞めればいいのです。もっと気概のある、もっと情熱のある若手の公認会計士にどんどん重要な仕事を担ってもらって、日本の監査や、日本の財務諸表の信頼性を胸を張って誇れるようになってもらいたいと思います。

（浜田康『粉飾決算』日本経済新聞出版社、2016年、31-33頁）

公認会計士の社会的使命（続）

- 公認会計士の活躍領域は、今日ますます経済社会のさまざまな分野に広範に広がっていますが、それは、これまで先人たちが高品質の監査を提供し、その社会的使命を立派に果たし、社会から高い信頼を得てきたからです。会計監査が今後とも引き続き社会から信頼を得ていくためには、急速に変化する経済社会の中で、経営者、監査委員会、規制当局、一般市民等を含む社会からどのように認識されているかに絶えず注意を払い、社会の期待に応えていくことが求められます。

（廣本「グローバルな監査品質の向上を目指して」

『会計・監査ジャーナル』2016年8月号、3頁）

公認会計士は、皆さんの未来の
魅力ある選択肢の1つです。

自分が向かうべき将来に向かって
しっかりと地固めをして
悔いのない高校生活を送ってください。

公認会計士・監査審査会 廣本敏郎